

BB7V

取扱説明書

ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。また、必要なときに読めるようこの取扱説明書は大切に保存してください。

●安全上のご注意

「**⚠ 警告**」の欄は、誤った取扱をした時に、死亡や重傷など致命的な結果に結びつく可能性が大きいものをまとめたものです。

「**⚠ 注意**」の欄は、

状況によって傷害を受けたり、物的傷害の発生が想定されるものをまとめたものです。

⚠ 警告

- ①電波防護指針によりアンテナを設置する場所が制限されます。指定された安全な場所にアンテナを設置してください。
- ②送信中のアンテナに触れないでください。感電・火傷の原因になります。
- ③雷がなり出したら、アンテナやケーブルには触れないでください。感電の原因になります。
- ④アンテナに落雷することがあります。お使いにならないときや、外出時には無線機からケーブルをはずし、軒下などの人に触れない屋外に出しておいてください。火災・感電の原因になります。
- ⑤送電線、ネオンサイン、電車の架線などの近く設置しないでください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となります。また、電話線などの近くに設置しないでください。アンテナが倒れた場合、断線の原因となります。
- ⑥不安定な場所、高所など足場の悪い場所に設置工事をしないでください。落ちたり、すべったりして、けがの原因となります。
- ⑦アンテナの部品や工具類を高い所から落とさないでください。けがの原因となります。
- ⑧アンテナの設置や点検は、風雨、雷、雪などの天候の悪い日は、危険ですので作業をしないでください。落ちたり、滑ったりして、けがの原因となります。

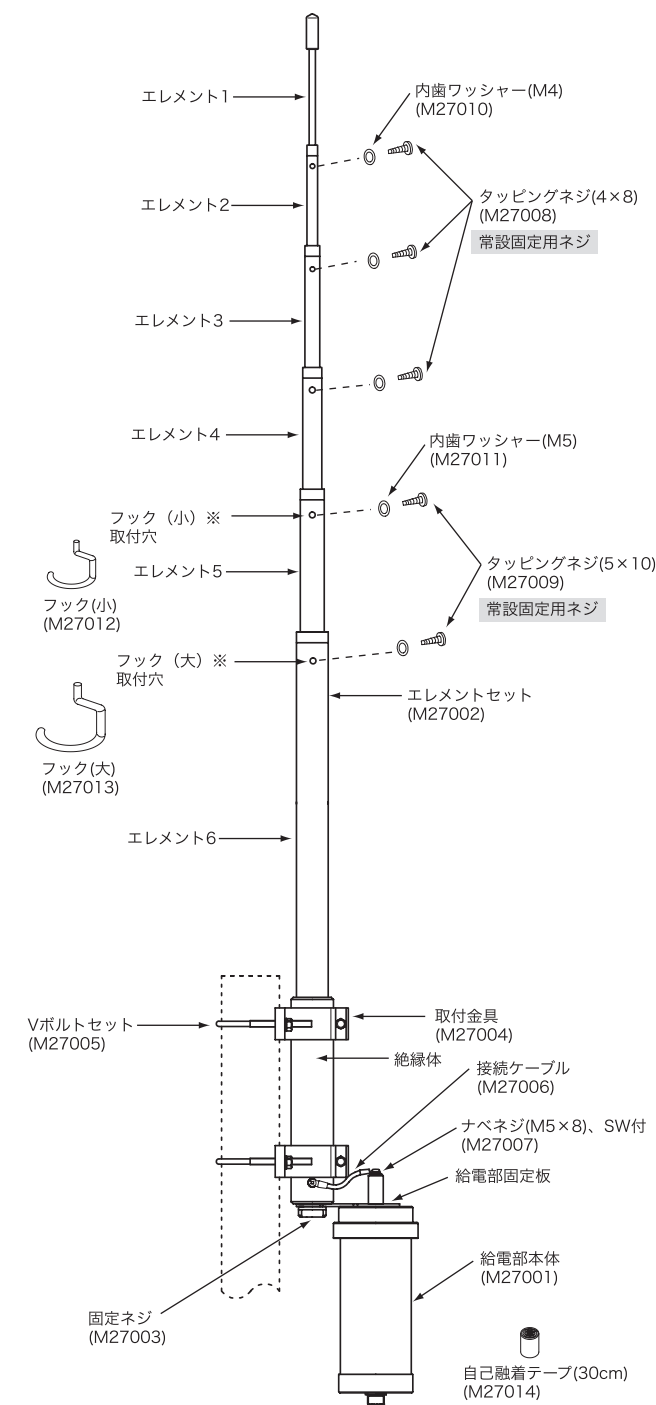
⚠ 注意

- ①BB7Vは広帯域設計のため、SWR2.0以下となっています。送信する場合にはアンテナチューナーをご使用いただき、SWR1.5以下に調整してください。設置状態によりSWR値は若干変化致します。
- ②アマチュア無線の電波は、家電製品や電話機などに電波障害を与えることがあります。あらかじめ自宅や周りの家に電波障害を与えていないことを確認してください。トラブルの原因になります。
- ③マンションやアパートなどによっては、取り付けに規制のあることがあります。あらかじめ管理組合、管理事務所、自治会などに確認してください。

●特長

- ①広帯域設計(2～30MHz)で、わずらわしい各バンドの周波数調整が不要です。
- ②移動運用時に便利な工具不要のエレメント簡単接続機構を採用。短時間でアンテナ組立ができます。
- ③アンテナエレメント収納時は、全長1.3mになりますので、移動時の持ち運びが容易です。

●パーツ名称図（補修部品番号）



●パーツリスト

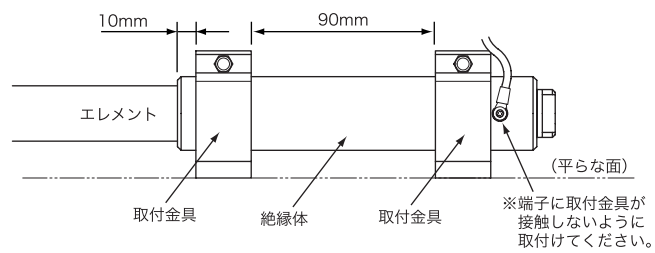
このアンテナは次の部品より構成されています。組立の前に、必ずお確かめください。なお、補修用パーツとしてお求めの場合には各パーツ番号にてご注文ください。

- ・給電部本体(M27001) ……1
- ・エレメントセット(M27002) ……1
- ・固定ネジ(M27003) ……1
- ・取付金具(M27004) ……2
- ・Vボルトセット(M27005) ……2
- ・接続ケーブル(M27006) ……1
- ・ナベネジ(M5×8),SW付(M27007) ……1
- ・タッピングネジ(4×8)(M27008) ……3

- ・タッピングネジ(5×10)(M27009) ……2
- ・内歯ワッシャー(M4)(M27010) ……3
- ・内歯ワッシャー(M5)(M27011) ……2
- ・フック(小)(M27012) ……1
- ・フック(大)(M27013) ……1
- ・自己融着テープ(M27014) ……1

●組立・設置方法

- ①エレメント基部の絶縁体に取付金具を下図の様に固定します。(平らな面に取付金具を置いて固定すると、簡単に取付できます。)



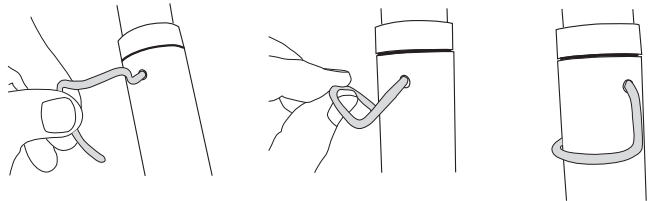
- ②エレメントセットのエレメントを細い方から順に引き伸ばし接続します。
 - ③エレメント1をエレメント2の中から引き出します。
 - ④エレメント1を伸ばしきった状態で時計回りに回転させると、さらに引き伸せるポイントが出てきます。
 - ⑤そのポイントにて図の様にエレメント1が突き当たるまで上方向に引き上げます。(動作①)
 - ⑥次にエレメント1をさらに時計回りに少し回転させると、それ以上回転できなくなります。(動作②)
 - ⑦回転出来なくなったポイントにて、下方向にエレメント1を下げて突き当たったところでエレメント1とエレメント2がロックされ接続完了です。(動作③)
 - ⑧以下エレメント2とエレメント3、エレメント3とエレメント4というように上部から順に、同じ方法にて接続してください。
- ※収納時は上記方法の逆を行ってください。

(注) ここまでのエレメント接続は、移動時などの仮設使用での組立です。なお仮設使用時に横風などによって、エレメント接続部が外れないように重量のかかる下側2カ所の接続部にフックを下図のように差込み、固定してご使用ください。(パーツ名称図※印の穴部にお使いください。)

固定局にて常設で設置するときは、付属のタッピングネジと内歯ワッシャーにより、各接続部にある常設固定用ネジ穴にネジを入れて、しっかりと固定してください。(5カ所)

●フック取付方法図

- ①フックを本設固定用ビス穴に差込む
- ②図の部分までエレメントにフックを入れる
- ③フックをエレメントに押し込む(完成)



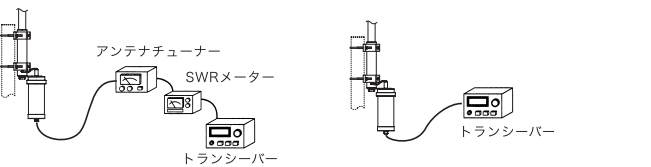
- ⑨絶縁体下部にある固定ネジをゆるめ、いったん取り外します。
- ⑩給電部固定板の穴に固定ネジを入れ、絶縁体下部のネジにもどし給電部本体を固定します。本設の場合はスパナ等でしっかりと締め付けてください。
- ⑪絶縁体下部から出ている接続ケーブルを、給電部本体の上部の端子にナベネジ(M5×8)、スプリングワッシャーにて固定してください。
- ⑫マストパイプにVボルトセットにて、しっかりと固定してください。
- ⑬最後に無線機からの同軸を給電部本体下側のコネクタに接続し、付属の自己融着テープを約1.5倍程度の長さになる様に引っ張りながら巻き付け、その上にビニールテープを巻き防水処理を行なってください。

水平又は傾斜状態での設置は強度的に危険です。
必ず垂直に設置してください

●SWRの確認

- ①BB7Vは無調整ですが、周囲の影響によってSWRが悪くなることがあります。ご使用の際にはアンテナチューナーを併用してSWRを1.5以下にして運用してください。
- ②SWR確認のため試験電波を出す場合には、他局の迷惑とならないよう、少ない電力で短時間を心がけましょう。
- ③使用する周波数帯および電力に適合するSWRメーターを用意して図のようにセットします。

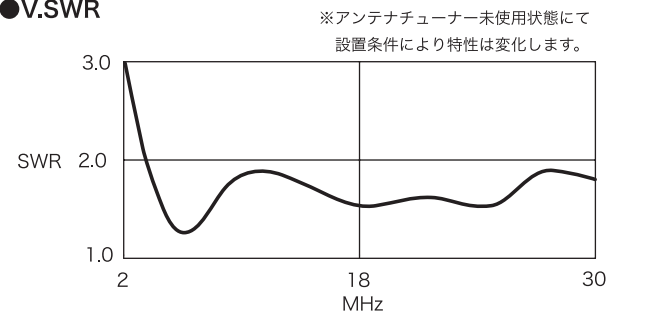
- 接続例 1 (アンテナチューナー外付型) 接続例 2 (アンテナチューナー内蔵のトランシーバーのとき)



●SWRが高いときの対処法

建物や地面などの影響を受けていますので、地上高を変えるか設置場所を変えてください。

●V.SWR



●規格

- 周波数 : 2～30MHz (アンテナチューナー併用)
- インピーダンス : 50Ω
- V.SWR : 2.0以下(3～30MHz)
- 耐入力 : 250W(PEP)
- コネクタ : M-J形
- 耐風速 : 30m/sec
- 全長 : 約6.7m
- 重量 : 2.3kg

■ご購入いただきました製品は、厳重な品質管理のもとに生産されておりますが、万一運搬中の事故などによる破損がありましたら、取扱店にお申し付けください。

■本アンテナの仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。